

平成29年2月27日付け津市監査委員告示第1号公表分

安濃総合支所

地域振興課

監査の結果	<p>安濃交流会館は、住民の健康増進、福祉の向上等を目的に設置された施設であり、農産物加工施設、温浴施設等から構成されている。このうち、同会館の中核施設である温浴施設は、PR活動など利用促進に努め、1日平均150人程度の利用者があるものの、安濃総合支所地域振興課作成資料によると、同会館の収支状況については、毎年約900万円の赤字が続いており、平成27年度の実質的な単年度収支も約932万円の赤字が生じている。</p> <p>このため、温浴施設については、経年劣化による修繕費の増加も予想されることなどから、今後の財政負担の状況も踏まえ、更なる経費の削減に取り組むとともに、一層の利用促進を図り、歳入確保に努めるなど、受益者負担の観点にも立ち、収支の改善に努められたい。</p>
措置の内容	<p>安濃交流会館の効率的で効果的な事業運営に向けて、平成30年度に関心表明の募集を行い、令和元年度に津市安濃交流会館整備事業検討懇話会からの意見を踏まえて安濃交流会館整備に係る事業手法を検討し、諸室（9室）の貸付け等により温浴施設の利用者の増加や地域の交流拠点としての活性化を図ることとした。</p> <p>収支の状況については、臨時的経費を除いた経常経費の予算ベースではあるが、令和元年度と令和2年度を比較すると、歳出面では、小破修繕の職員対応等、維持管理費用の削減、歳入面では、温泉利用料の増加等により約180万円の収支改善を図ることができた。</p> <p>歳入に関しては、諸室の貸付け（3室）により年間33万4,799円の貸付料が収入されるとともに、現在募集中の諸室6室についても貸付けができれば年</p>

間で更に約70万円の収入が見込める。また、貸付事業者による諸室の利活用やイベント実施により、利用者の増加が見込まれ、温浴施設も含め利用料収入の増加が期待できる。

今後も、空いている諸室について貸付事業者を確保するとともに、諸室の利活用、イベント実施を通じて更なる利用者増による収入確保に努め、収支の改善を図る。